

25 国 語

(解答番号 ~)

※国語は「経済経営学部」「健康医療学部」および「人文学部」は必須。
「バイオ環境学部」は選択。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ヨーロッパの「石の文明」と、東南アジアおよび南東アジアの「泥の文明」とを比較してみたばあい、自然が圧倒的に豊饒じょうじょうなのは、「泥」のほうである。

たとえば、近代西洋文明のモデルをかたちづくったイギリスや北フランスのドーバー海峡のあたりに行ってみると、ほとんど石ばかりの風土である。表土の厚さはせいぜい一〇〜二〇センチで、そこに生えるのは荒地に群生する常緑低木のヒースぐらいである。E・ブロンテの『嵐が丘』の世界を思い浮かべたらよいだろうか。土地は寒冷の痩せ地である。同じヨーロッパでも、南のほうへ行けばもう少し植生が多様だが、それでもブドウやオリーブの木とヒナゲシなどの植物が目につく。

I、石の風土は砂漠の砂と違って動かないから農耕用にテンカaできる。石まじりの土壌から石を取り除いてわずかな農耕用や牧場用の土地（ランド）をつくり、北海のほうから鱈いわしや鰯いわしなどを仕入れて肥料として土に埋め込むことによって、ようやくわずかな野菜と牧草ができるという状態である。だから、たとえば冬のドイツやデンマークなどに行くと、植物系の食物はタマネギとジャガイモしか出てこないのである。フランスは南のほうから野菜を仕入れてくるから、そんなに貧弱な食卓にはならない。だが、いずれにしても、日本や東南アジアのように、常に野菜があるというような食生活はできないのである。

そのような痩せた土地だから、農耕・牧畜を可能にするには、一所懸命に土地や自然の開発をすることが必要とされたのである。自然の改良・開発をしなければならぬ。自然がすべてあるがままの状態でものを生んでくれるというのは、「泥の文明」^A的な自然＝豊饒の感覚にすぎないのである。

II、ヨーロッパにおける開発というものは、常に裏に破壊をはりつかせている。もともとある自然を変えていかなければならない、と考えを巡らすわけだ。「自然」という言葉はアジアにとってはプラスイメージで、日本や中国（黄河以南）などでは「自然体」「自然流」といえば理想のイメージである。人間の生き方も自然に学ぶわけだ。

III、ヨーロッパではナチュラル・チャイルドは「自然児」とか「野性児」の意味ではなく、「法」に認められていない「私生児」の意味である。「ネーチャー・コールズ・ミー（自然が私を

呼んでいる)」と言えば、トイレに行きたい、ということの意味する。自然は変えてやらなければ、文化や法や都市、そうして文明に達しないわけだ。

^ア 翻つて言えば、ヨーロッパで自然科学が発達したのは、この土地や自然の開発が必要とされたからである。土地や自然はどういう本質と特性を持っているのかということを、まず原理として解明する。そのうえで、それを応用したり、^b ホテンしたり、改良したりしていく。植物が生育するためには、肥料三要素のチツソ・カリウム・リン酸が必要だという科学的研究もなされる。これによって土壌ももとの自然的な痩せた状態から改良されるわけだ。

アジアではそれを^イ 経験則としておこなうが、西洋ではまず原理研究から始めるのである。それによって自然の改良をおこなうのだ。^B これは当然、ある種の自然破壊になる。

^ウ 端的に言えば、「リンゴはなぜ木から落ちるのか」「風はなぜ吹くのか」「川の水はなぜ上から下へ流れるのか」といった自然の原理は、いくらアジア人が古代から優れた文明を持っていたとしても、まったく考えようとしないう発想だった。ヒンドウー文明然り、中華文明然り、あるいは日本の文明然りである。自然はあらかじめ^エ 所与として存在するものであり、そういう自然の原理の解明ではなく、その原理の^c うえに立った自然利用がアジアの得意とする発想であった。ヨーロッパのように自然の原理を解明するような科学は、アジアではあまり発達してこなかったのである。

IV、科学はアジアでまったく発達してこなかったわけではない。土地や自然からつぎつぎと多くのものが生まれるから、それぞれの動植物や鉱物について、それはどこにあるものか、何の役に立つのか、何の薬になるのか、この毒はどうすれば薬に変えられるのか、といった生態学や本草学的な学問はきわめて高度に発達していたのである。

最近はそのような知識も失われつつあるが、わたしたちが子どもの頃には、たとえば道で転んで血が出たらチドメグサ（血止め草）をもんで貼ればいい、といったことを当たり前のように知っていた。トウモロコシの毛は利尿剤になるとか、ドクダミは腫れ物に効くといったことは、常識であった。インドでは、ジンジャーは美しい花の鑑賞植物である以上に、精神を清らかにする聖なる植物であった。こういった知識は、いわばアジア人の中にある伝統的自然観として根づいていたわけだ。漢方をはじめとするこうした知識は、アジアという風土の中で発達してきた学問に

ほかならない。

それはともかく、「石の文明」のヨーロッパ世界では、自然を変えていかないと人間がそこにたくさん住めず、社会も豊かにならない、という人間の必要から、なぜ自然はこうなっているかという原理を究明する科学が発達した。しかし、それでも土地はまだアジアに比べれば痩せているから、結局できるものといえば牧場である。そこで、人間を養うための肉や乳製品、そうしてその毛や皮を工業生産の素材とするために羊や牛を飼うわけだ。

興味深いのは、近代ヨーロッパの文明というものが、ヨーロッパ全土の牧場で成立したわけではない、ということである。これが成立したのは、気候も温暖で自然が豊饒であり、それゆえにマリア信仰が根づいた南ヨーロッパではなく、寒冷で石がちの風土のイギリスや北フランスにおいてであった。

たとえば、西欧の牧場で羊や牛を飼っている家で、子どもが生まれたり、子どもを学校に行かせたり、あるいはもう少しいいものを食べたいとおもえば、その分だけ羊や牛を増やさなければならぬ。仮に一〇〇頭いる羊を一二〇頭にしたいとおもったとしたら、牧場を二〇パーセント分ひろげる必要がある。いわゆるエンクロージャーした土地を外に拡大しなければならぬわけだ。

こうして牧場をひろげていくと、フロンティアの精神が顕著になる。それによってヨーロッパが発展するためには、ヨーロッパ外に進出しなければならない。ニューフロンティアを求めてアメリカに渡り、アメリカで足りなければアフリカに行き、またアフリカで足りなければアジアへ進出する。西欧の近代は、^D「外に進出する力」というものを文明の本質として持つようになったのである。

だから、ヨーロッパ・アメリカが「外に進出する力」の本質において、拡大・発展するための技術革新はその科学的発明、すなわちプロダクト・イノベーション（生産手段における技術革新）のかたちをとった。蒸気船、鉄道、自動車、電信機、ボウセキ機……といった発明が、これである。

また、フロンティアを拡大し、新しいテリトリーを確保するためには、戦争も不可避である。だから大砲や機関銃、ミサイルといった兵器が開発、技術革新された。

V

、そのフロ

ンティアと連絡をとるための通信システムもつくられた。つまり、輸送、戦争、通信といった分

野で、驚異的な、近代の「パワー（力）」の技術革新をおこなったのである。そのさい、ヨーロッパ・アメリカが相互の衝突や競争を解決・^dチウウテイするための国際法や、国際司法裁判所などの国際機関もつくられた。これらは、近代のヨーロッパ文明、アメリカ文明の本質が「外に進出する力」だからである。

では、農耕文明とでもいったかたちで発達したアジア文明に技術革新はなかったのでしょうか。東アジアおよび南アジアに発達した文明の本質は、ヨーロッパ・アメリカの「外に進出する力」に対して、「^E内に蓄積する力」であったと規定できようか。その「内に蓄積する力」にあつては、ヨーロッパ・アメリカ文明がプロダクト・イノベーションをしたのに対して、いわばプロセス・イノベーション（生産^eコウテイにおける技術革新）をした、と規定^オすることができる。

つまり、アジアの農耕社会は三千年来、隣の民族、隣の村落と、山や川をへだてて共存することを強いられている。その結果、「外に進出する」ことは無理で、同じ土地に何百年となく住みつづけている。としたら、そこでのイノベーション（技術革新）は、品種改良、品質管理、そしてコウテイ上の改善・改良といったかたちをとらざるを得ないのである。

こういった牧畜文明としてのヨーロッパ・アメリカの「外に進出する力」と、農耕文明としてのアジアの「内に蓄積する力」とが激突したのが、百六十年まえから百年まえあたりの「西力東漸」、言い換えるとアジアにおける「ウエスタン・インパクト」であつた。

（松本健一『砂の文明 石の文明 泥の文明』による）

問一 文中の傍線部 a ～ e に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、1 ～ 5。

a

1 テンカ

① ホウカ後の部活
② ツイカ点を与える
③ ジュウジカを掲げる
④ 機械がカドウする
⑤ カガク記号

b

2 ホテン

① 祭のロテン
② テンプ資料
③ テンガン液
④ テンカを統一する
⑤ 空気をジュウテンする

c

3 ボウセキ

① カイセキ装置
② セキラン雲
③ セキニンを逃れる
④ セイセキが良い
⑤ 異端をハイセキする

d

4 チョウテイ

① 話題のチョウフク
② 無用のチョウブツ
③ 耳にヘンチョウをきたす
④ チョウデンを打つ
⑤ 事情チョウシュ

e

5 コウテイ

① コウジョウ生産
② 任務をスイコウする
③ ユウコウ期限
④ コウカイ先に立たず
⑤ コウテイ差を測る

問二 傍線部ア～オの文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、6 ～ 10。

ア 翻って言えば

6

- ① 多角的に分析すれば
- ② 見方を変えて説明すれば
- ③ 誇張をなくして簡潔に説明すれば
- ④ 少し大きさに述べれば
- ⑤ 飛躍したことを言えば

イ 経験則

7

- ① 因果関係が不明だが事実らしい法則
- ② 体験の繰り返しから見出された法則
- ③ 過去の体験から得られた知識
- ④ 繰り返し学習された行動・思考のパターン
- ⑤ 過去の事実から推測される新たな事実

ウ 端的に言えば

8

- ① 即座に言い表せば
- ② はつきりと述べれば
- ③ わかりやすく説明すれば
- ④ 極端な言い方をすれば
- ⑤ 要点をまとめれば

エ 所与

9

- ① 長い歴史をもつもの
- ② 素朴な姿を保つもの
- ③ 贈与されているもの
- ④ そのまま利用できるもの
- ⑤ すべてを包み込み保護するもの

オ 規定する

10

- ① 決めつける
- ② 規則を設ける
- ③ 概念を定める
- ④ 名前を与える
- ⑤ 実態を把握する

問三

本文中の空欄Ⅰ～Ⅴに入る最も適当な語句を、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一

つずつ選びなさい。解答番号は、

11

15。

11

Ⅰ ① ところで ② ただ ③ たとえば ④ もちろん ⑤ それゆえ

12

Ⅱ ① だから ② つまり ③ それほともかく ④ だが ⑤ ところで

13

Ⅲ ① もちろん ② たとえば ③ つまり ④ ところで ⑤ しかし

14

Ⅳ ① とすると ② それゆえ ③ もちろん ④ たとえば

⑤ ともかく

15

Ⅴ ① だが ② たとえば ③ さらに ④ それゆえ ⑤ それによって

問四

傍線部A『泥の文明』的な自然⇨豊饒の感覚にすぎない」の説明として最も適当なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

16。

① ヨーロッパの石混じりの土壌は、そもそも農地にするよりも牧場にする方が向いているとい
うこと

② ヨーロッパの石混じりの土壌は、かえって農地に変えやすいため、決して不毛ではないとい
うこと

③ 石の風土をもつヨーロッパでは、自然が多いことは必ずしも豊かさを意味しないということ

④ 石の風土をもつヨーロッパでは、土地の開拓なしに豊かな自然は得られないということ

⑤ 石の風土をもつヨーロッパでは、自然に手を加えることで、いつそう多くの実りを得る工夫
がなされているということ

問五 傍線部B「これは当然、ある種の自然破壊になる」の理由を説明するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、17。

- ① 自然の原理を解明するために、土や植物を採集する過程で、必然的に自然を傷つけたり、生態系を崩してしまったりすることがあるから
- ② 自然を利用するために環境に手を加えることは、本来の状態から歪めることになり、自然を損なう行為に他ならないから
- ③ 自然を自在に利用できるようになった結果、過剰な利用によって自然環境をぼろぼろにしてしまうことがあるから
- ④ 自然を改良するために自然の原理が究明され、科学が発展していくと、かえって自然本来の姿は見失われてしまうから
- ⑤ 自然の原理を解明し、人間の都合のよいように自然の姿を変えることは、風土を破壊する行為の一つといえるから

問六 傍線部C「その原理のうえに立った自然利用」の説明として最も適当なものを、次の①～

⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、18。

- ① 「リンゴはなぜ木から落ちるのか」といった自然のさまざまな原理を明らかにした上で、自然の恵みを生活に役立てるといふこと
- ② 「リンゴはなぜ木から落ちるのか」といった自然のさまざまな原理を明らかにすることを控え、豊かな自然をそのまま受け入れ、生活に運用するといふこと
- ③ 「リンゴはなぜ木から落ちるのか」といった自然のさまざまな原理を明らかにする知恵を持たないにもかかわらず、豊かな自然を自在に使用するといふこと
- ④ 「リンゴはなぜ木から落ちるのか」といった自然のさまざまな原理を理解しつつも、無理にそれを考慮することなく、あるがままの自然を用いるといふこと
- ⑤ 「リンゴはなぜ木から落ちるのか」といった自然のさまざまな原理に関心をもたないまま、自然の恵みを活用するといふこと

問七 傍線部D「西欧の近代は、そういう意味で『外に進出する力』というものを文明の本質として持つようになった」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**19**。

- ① ヨーロッパの人々が生活を向上させ社会を豊かにするには、単に領有する土地を増やす必要があると考えたということ
- ② ヨーロッパ社会の発展と人々の豊かな生活のため、新たな土地を開発したということ
- ③ ヨーロッパの人々が豊かな自然を得るためには、海に向こうや遙か遠くの国に領土を求めるほかなかったということ
- ④ 土地を改良して利用面積を広げることで、ヨーロッパの人々にとっての安定した生活と豊かな社会を実現しようとしたということ
- ⑤ ヨーロッパの人々が生活向上のために、海外に進出し、新たな文化や技術を獲得しようとしたということ

問八 傍線部E『内に蓄積する力』の説明として最も適当なものと、その特性が具体的に表れた例として不適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**20**、

21。

20

説明

- ① 決まった土地に定住しそこでの共同体を維持していくために、外部からもたらされた新たな技術や発想を積極的に学び、集積し共有していくことで、共同体の結束を強めていく力
- ② 決まった土地に定住しそこでの共同体を維持していくために、外部から未知の技術や発想が流入することを防ぎ、昔からある技術を正確に伝えていくことで伝統を繋いでいく力
- ③ 決まった土地に定住しそこでの共同体を維持していくために、過去の技術に学びながら新たな技術を発明し、やがて共同体の外部にまでその影響を広げていく力
- ④ 決まった土地に定住しそこでの共同体を維持していくために、従来の技術に工夫を重ねたり新たな技術や発想を取り込んだりすることで、よりよい技術を積み重ねていく力

- ⑤ 決まった土地に定住しそこでの共同体を維持していくために、従来の技術を尊重しつつ新たな技術や発想も積極的に学ぶことで、革新的な技術を開発し領地を広げていく力

21

具体例（不適当なもの）

- ① 万が一の災害に備えて、地域で避難訓練を行う。
- ② 落語家が古典落語の台本に即興で時事問題を交えて話し、その日の聴衆の笑いを誘った。
- ③ 昨晩のカレーが残っているので、今日はカレーうどんにして食べようと思う。
- ④ 日本では外来の文字である漢字を元にして、平仮名や片仮名が発明された。
- ⑤ 公害に耐えきれなくなったので、月に土地を買い移住することにした。

問九 本文全体の趣旨として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番

号は、

22。

- ① 土地の痩せた北ヨーロッパでは、自然が少なく人々が豊かな収穫を得にくかったため、フロンティアの精神によって自然を改良する技術が発達した。
- ② アジアの人々にとって自然とは当たり前のように存在しているものであったため、自然を利用して生活を豊かにするための技術はアジアでは発明されなかった。
- ③ アジア人の自然観とヨーロッパの自然観とが異なるのは風土的な特徴ゆえであり、それぞれの文明における思考法や技術のありようも同じではない。
- ④ もとより自然の恵みが豊富なアジアでは、自然のさまざまな仕組みや法則を知ること以上に、そこにある自然をどのように文明化していくかが重視された。
- ⑤ 動力や通信、兵器などの開発によって、牧畜文化を基底とするヨーロッパ文明が、農耕文化を基底とするアジア文明より優れた発想や技術をもつことが証明された。

二

次の問一～問三に答えなさい。

問一 次のA～Eの慣用的表現の空欄に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、23～27。

23

A ご尊父様のご逝去、慎んで（ ）をお祈り致します。

- ① ご冥福 ② ご成仏 ③ ご往生 ④ ご他界 ⑤ ご静養

24

B 青森では、リンゴが枝も（ ）実っている。

- ① 下がるほど ② 折れそうに ③ 曲げて ④ しなうほど ⑤ たわわに

25

C 窮鳥（ ）に入れば猟師もこれを殺さずと言う。

- ① 目 ② 網 ③ 懐 ④ 手中 ⑤ 門

26

D 先生、この研究会ですが、次回はいつに（ ）。

- ① しますか ② しましよか ③ しましよね ④ いたしましよか
⑤ さしていただくべきでしょうか

27

E（ ）お見舞い申し上げます。

- ① 炎暑 ② 猛暑 ③ 熱暑 ④ 暑中 ⑤ 炎天

問二 次のa～eそれぞれの条件にかなうものを過不足なくあげたものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、28～32。

28

a 平安時代に成立した作品

- ア 懐風藻 イ 栄花物語 ウ 蜻蛉日記 エ 太平記 オ 大和物語
① アとウ ② イとエ ③ ウとオ ④ アとウとエ ⑤ イとウとオ

29

b 鎌倉時代に成立した作品

- ア 十訓抄 イ 竹取物語 ウ 新撰菟玖波集 エ 源氏物語 オ 方丈記
① アとオ ② イとエ ③ ウとオ ④ アとイとウ ⑤ アとウとオ

30

c 江戸時代に成立した作品

- ア 浮雲 イ たけくらべ ウ 日本永代蔵 エ 春琴抄 オ 雨月物語
① アとウ ② アとオ ③ イとエ ④ ウとエ ⑤ ウとオ

31

d 昭和以降に成立した作品

- ア 東海道四谷怪談 イ 細雪 ウ 金色夜叉 エ 金閣寺 オ 梁塵秘抄
① アとウ ② アとエ ③ イとウ ④ イとエ ⑤ エとオ

32

e 志賀直哉の作品

- ア 斜陽 イ 小僧の神様 ウ 暗夜行路 エ 五重塔 オ 窓際のトットちゃん
① アとイ ② イとウ ③ ウとエ ④ アとウとエ ⑤ イとエとオ

(次頁に続きます)

問三 次のコラムは、▼を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読
んで、後の問いに答えなさい。

(1) それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も
適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。(完全解答) 解答番号は、

36。

33

▼最初の段落― (33) ― (34) ― (35) ― (36) ― ▼最後の段落

▼ 亡き人の命日は、家族や親しい人の心に刻まれる。だが世に多くある書籍や論文の書き手が
いつ亡くなったのか広く知られているわけではない。国立国会図書館関西館(京都府精華町)
の仕事の一つが「没年調査」だ。

① こうした作業を郷土資料を使って後押ししようとするところ、京都府立図書館(京都市左京区)
司書らのグループ「ししまろはん」が調査イベントを開いた。

② 肩書や経歴に「京都」が含まれる著者を調べ、同窓会の記念誌や新聞の訃報で確認したり本
の端書きに追悼文を見つけたりした。32人の没年が2時間で判明した。

③ 価値ある資料も没年が不確かなら公開できない。関西館では担当職員3人が奥付や序文、他
の資料にヒントがないかを丹念に調べている。デジタル化した図書97万点のうち、保護期間満
了が確認されたのは27万点。先は長い。

④ 著作権の保護期間は50年。著者の没後、半世紀たてば誰でも自由に作品を利用できる。国会
図書館が収集時にデジタル化した所蔵資料も、保護期間が終わるとインターネットで公開され、
研究や創作に役立てられる。

▼ ネット公開された国会図書館の資料はパブリックドメイン(公有財産)と位置付けられる。
司書らは「新たな文化を生み出すために活用を」と願う。地道な作業が文化の継承を支えている。

(凡語 没年調査 京都新聞2017年10月16日、※著作権の保護期間については、掲載当時のものである。)

(2) 正しく並べられたコラム全体の趣旨として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ
選びなさい。 解答番号は、

37。

- ① 著者の没年調査は、作品のネット公開の前提となる基本情報なので、都道府県が主体となつて調査が行われている。
- ② 著作権の切れた資料を公有財産として活用するため、国立と府立の図書館が著者の没年調査で連携し、成果を挙げている。
- ③ 著作権の保護期間が長いことが、日本の著作物がなかなか公開されず研究や創作に役立てられにくいことの原因である。
- ④ 著者の没年は、同窓会の機関誌や新聞の訃報でしか知ることのできない調査困難な情報である。
- ⑤ 価値ある情報が公開され、知的公有財産となって文化の継承に寄与することは、重要なことである。

以上で問題は終わりです。